

<全体分析>

試験時間

105 分

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問 I からIVの本文の語数は、昨年は2,255 words, 今年は2,006 words で249 words 減少した。

出題の特徴と昨年との変更点

読解総合2題, その他(対話文)1題, 英作文1題の構成は昨年と同じ。

その他トピックス

- ・大問IVは、昨年まで続いたグラフから読み取った内容を述べるものから、図の説明とそれが表す内容の説明に変わった。
- ・自由英作文の制限語数は、大問IIIが25~35 words から20~30 words になったが、大問IVはそれぞれ30~50 words の2問が出題され、変化はなかった。
- ・2年続いて出題された和文英訳問題は出題されなかった。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「ロナ湖の意義を構築する3つの視点」 (本文:653 words) (設問:198 words)	ある土地の意義が地質学, 神話学, 考古学の3つの視点から構築されることをインドにある巨大なクレーター湖のロナ湖を例に論じた英文で, 語数は昨年の617語から36語増えた。設問数は昨年と同じ6問であった。1.では文章全体の趣旨を説明する文を完成させる問題が出題された。2.では段落のトピックセンテンスの選択問題が出題された。この形式の出題は2021年から4年連続である。3.の空所補充は文意に沿って形容詞を選ぶ問題で, 正確な文意の把握が求められるため, 難易度は高めであった。4.の空所補充は前置詞を入れるもので, コロケーション等の知識で対応できる比較的容易な問題であった。5.の説明問題では該当箇所は直後にあるが, 制限字数内に収めるために, 少し工夫が必要であった。6.の和訳問題は構造が単純で解きやすいものであった。 1. 空所補充 (1ヶ所, 選択肢4個) 2. 適文補充 (4ヶ所, 選択肢7個) 3. 空所補充 (4ヶ所, 選択肢6個) 4. 空所補充 (5ヶ所, 選択肢8個) 5. 下線部内容説明 (25~35字) 6. 下線部和訳	やや難

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
II	読解総合	「親切な行為の予想以上の効果」 (本文: 689 words) (設問: 52 words)	<p>《出典》 Sohoni, Pushkar and Swapna Joshi. "Geological Wonder as a Sacred Landscape: The Case of Lonar Crater." <i>Education about Asia</i> 27 (3): 37-41 (Winter 2022). (大学発表)</p> <p>親切な行為がもたらす効果について書かれた英文で、比較的読みやすく、分量もやや減少した。1. は答えになりうる箇所がいくつかあり、どれを選ぶのか迷ったのではないかと。2. は選択肢の形容詞に難しいものが含まれていた。3. と 5. の下線部和訳は文脈に沿った日本語にする工夫が必要とされた。6. は制限字数内にまとめるのが難しかった。</p> <p>1. 下線部内容説明 (25~35 字) 2. 空所補充 (5 ヶ所, 選択肢 10 個) 3. 下線部和訳 4. 空所補充 (1 ヶ所, 選択肢 5 個) 5. 下線部和訳 6. 下線部内容説明 (25~35 字)</p>	標準
III	その他 (対話文)	「歴史的な出来事に関する祖父と孫の会話」 (本文: 559 words) (設問: 290 words)	<p>《出典》 Kumar, Amit. "Kindness Can Have Unexpectedly Positive Consequences." <i>Scientific American</i> (Online) December 12, 2022. (大学発表)</p> <p>歴史に関する課題を与えられた孫が、祖父に援助を求めて展開される対話文で、選択問題が中心である。3. は文中で根拠となる箇所がわかりにくく、正解を選択するのがやや難しかったと考えられる。6. は「科学技術が進歩する中で将来に対して楽観的であるか」についての考えを、20~30 words の英語で述べる問題になっている。</p> <p>1. 同意文選択問題 (選択肢 5 個から 1 つ選択) 2. 同意文選択問題 (選択肢 5 個から 1 つ選択) 3. 孫が祖父の経験について尋ねた理由 (選択肢 5 個から 1 つ選択) 4. 内容一致問題 (選択肢 5 個から 2 つ選択) 5. 空所補充問題 (4 ヶ所, 選択肢 7 個) 6. 「科学技術が進歩する中で将来に対して楽観的であるか」についての考えを 20~30 words の英語で説明する問題</p>	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
IV	英作文	「視覚上の錯覚」 (本文: 105 words)	両端に V 字を横向きにした形を付けた 2 本の同じ長さの直線を見ると, V 字が外向きのものの方が内向きのものより長く見える, という視覚上の錯覚 (the Muller-Lyer illusion) を表す図を見て, 30~50 words の自由英作文を 2 つ書く問題。1. は図の具体的な説明をするだけの問題にもかかわらず, 説明の仕方が意外なほど難しく, 2. は一般化した内容を書かなければならないので, やはり簡単ではなかった。 1. 図を見たことのない人に, どのような図なのか分かるように説明する問題。 2. この視覚上の錯覚が, ものの見え方についてどんなことを示しているかを説明する問題。	難

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 読解総合問題では, 論旨展開の把握を問う問題の出題が続いている。このような問題に対処するためには, 論旨展開や文章の構成に留意して読み進める練習が必要である。また内容説明問題に関しては, 必要な情報を制限字数内でまとめる力を養成する必要がある。演習には北海道大, 東北大, 筑波大, 大阪大などの長文問題が利用できる。
2. 対話文読解で出題される自由英作文対策としては, 東北大の問題が利用できる。
3. IVの自由英作文では, 図・絵などを説明するときに用いられる, 形状・位置関係などを表す表現を確実に書けるようにしておきたい。また, 昨年まで出題されていたグラフ・表などの読み取りに関する問題も練習しておこう。